

昭和53年度第1回シグマ特別専門委員会議事録

日 時 昭和53年8月30日(木) 11:00～17:00
場 所 日本原子力研究所東京本部第34会議室
出席者 塚田甲子男(主査, 原研), 安成弘(東大), 飯島俊吾(NAIG),
五十嵐信一(原研), 池上栄胤(阪大), 大田正男(九大),
大竹 巖(動燃), 小幡行雄(原研), 菊池康之(原研),
坂本正誠(原研), 関 雄次(MAPI), 田村 務(原研),
中嶋龍三(法大), 西村和明(原研), 能沢正雄(原研),
原田吉之助(原研), 弘田実弥(原研), 更田豊治郎(原研),
松延広幸(住友原工), 宮坂駿一(核管センター), 百田光雄
山室信弘(東工大), 山本正昭(FBEO)
オブザーバ : 浅見哲夫(原研)
欠席者 : 浅見(明), 桂木, 木村, 梶山, 立花, 田中, 夏目,
久武, 平田

配布資料

1. 前回(53.3.14) 議事録
2. 昭和53年度委員名簿
3. 監査小委員会報告書
4. NEA核データ委員会第20回会合
5. JENDL-2 収納予定核種とそのデータ利用分野
6. Tenth Meeting of the International Nuclear Data Committee,
Proposed Draft Agenda
7. Preliminary Agenda for the 21st Meeting (NEACRP)
8. 核構造データWGの現状と予定
9. 核データ・炉物理合同特別会合
10. シグマ委特別会合(研究会プログラム検討会) 議事録

議 事

1. 主査の挨拶

2. 前回議事録確認

資料(1)により行い、次の2点を訂正することで了承された。

○ p.3 下より12行目

「JENDL-3 以降でも r 線データ……」を「JENDL-3 以降では
2次 r 線データ……」に訂正する。

○ p.4 上より8行目

「に更田、桂木両委員……………報告され」を削除する（事実と違うため）。

3. 事務局報告（更田）

次の項目について報告があった。

1) 運営委員会

2) 核データ小委員会（6/2, 第6回）

3) 物性データバンク

4) NEA Data Bank : 土橋氏の後任に長谷川氏（原研）が赴任した。

5) 第2回基礎科学の研究に関する懇談会（塚田）

6) 国際会合

a) Nuclear Data Problems for Thermal Reactor Applications,
BNL, 22 - 24 May 1978 : BNL へ留学中の中原氏に出席しても
らった。

b) Specialist Meeting on the Nuclear Data of Higher Plutonium and
Americium Isotopes for Reactor Applications, BNL, 20 - 22
Nov. 1978の紹介。

c) Harwell Conference, 25 - 29 Sept. 1978 : 山室, 弘田, 更田各委
員が出席する。

7) 原子力学会20周年特集号（中嶋）

4. 専門部会活動報告

次の報告が行われた（詳細は省略, 特記事項のみ）

○ 核データ専門部会（五十嵐）

炉定数専門部会のFP炉定数WGをFP核データWGに吸収した。

- 重核データWG（松延）
- 軽・中重核データWG（浅見（哲））
- 炉定数専門部会（菊池）
- 遮蔽定数WG（宮坂）
- 核構造データWG（田村）：資料(8)により A-chain 核構造データの評価の現状と ENSDF 整備の状況の説明。
- 崩壊熱評価WG（中嶋）
- 燃料サイクル核データWG（更田）
- CINDA グループ（中嶋）
- WRENDA グループ（五十嵐）：今まで fission.fusion.safeguards を別々にやっていたが今後はまとめてやる。年内に新リストを作成する。
- 熱中性子文献グループ（坂本）
- CG グループ（五十嵐）：資料(5)により JENDL-2 収納核種の説明。

5. 委員会人事

- 1) 新委員：事務局より、本委員会の新委員に梅沢弘一氏（原研），小林節雄氏（日立）を推薦することが提案され，承認された。
- 2) 主査の改選：出席者21名，委任状2で選挙が成立する（委員総数の $2/3$ 以上）ことが確認され，立合人として安，原田，山室，山本（以上監査小委員），更田の各委員が選出され投票に入った。投票の結果，塚田委員18票で塚田主査が再選された。

6. NEA 核データ委員会第20回会合報告（塚田主査）

資料(4)にもとづいて報告が行われた。

7. 監査小委員会報告

原田委員より資料(3)にもとづいて報告が行われ，次の4点について一層の努力を払うよう要望が出された。

- (1) シグマ委員会の機能の充実化をはかること（計画や位置づけについて

もっと本委員会で検討，議論すべきである)。

- (2) 成果を明確にし，PRをはかること。
- (3) 成果の利用の拡大をはかること。
- (4) 予算の増額をはかること。

これについて質疑応答，討論を行った。

8. INDC 第10回会合

更田委員より資料(6)にもとづいて説明があった。その中で注文等があったら連絡して欲しいこと，核データの journal 誌を提案したいとの発言があった。

9. NEACRP 第21回会合

弘田委員より資料(7)にもとづいて説明があった。11/6～11/10 東海研で行われる。動燃と炉物理研究専門委が中心となって準備を進めている。

10. 学会会合

1) 核データ・炉物理合同特別会合：松延委員より資料(9)の説明があった。

2) シグマ委特別会合：中嶋委員より資料(10)にもとづいて説明があり，とくに，本委員会と結び付けてやるので本委員は是非出席して欲しいとの発言があった。

3) 原子力総合シンポジウム

山室委員より概要について説明があった。基調テーマの候補は「炉型の多様化と長期戦略」と「原子力開発における基礎データ」であったが，原子力学会からは前者を提案することになり，後者は基調テーマでなく各論でとり挙げることになった。更田委員より後者が基調テーマとして取り挙げられたときのために作成しておいた案の説明があった。

11. 54年度概算要求(更田)

局の内示の概要について説明があった。

12. その他

1) 飯島委員より(1) r production cross section と(2) “変な” cross section の要求の調査について2つの adhoc サブグループを設けること

が提案された。討議の結果、(1)については飯島委員をリーダーとする
ad hoc サブグループをつくって検討を行い、次回の本委員会に答申して
もらうことにした。(2)については運営委で検討することにした。

2) 更田委員より測定計画の調査結果の紹介があった。